

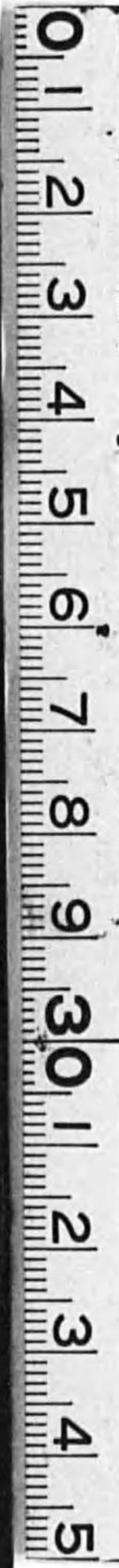
14. 5-189



14.5

189

最近に於ける内外貿易と
横濱港の地位
横濱商工会議所



始



調査資料第十六輯

最近に於ける内外貿易と横濱港の地位

横濱商工會議所調査部

最近に於ける内外貿易と横濱港の地位

目次

一、	外國貿易	一
(一)	概説	一
(二)	貿易品の内容	三
(イ)	主要輸出品	三
(ロ)	主要輸入品	三
(三)	國別貿易	九
(イ)	横濱港の輸出相手國並に國別輸出額	九
(ロ)	横濱港の輸入相手國並に國別輸入額	九
二、	内國貿易	一三
(一)	概説	一三
(二)	入出港貨物の數量及價額	一五
(三)	他港との比較	一八
(四)	外國貿易との比較	二一



二

(五) 取引地方 二三

(六) 入出港主要品 二八

三、貿易上に於ける横濱、神戸兩港の比較 三二

(一) ヒンタラントの廣狹 三三

(二) 外國貿易の趨勢 三四

(三) 内國貿易の趨勢 三七

最近に於ける内外貿易と横濱港の地位

一、外國貿易

(一) 概説

横濱港の外國貿易は、歐洲戦後大正八年を最好況とし、大正十年には反動のどん底に陥り、大正十一年に至つて漸く回復の氣勢を示せるも、大正十二年の大震災により大打撃を受け、一時外國貿易は杜絶するに至つたが、大正十三年に於て稍々復活の曙光を見、大正十四年に至つて輸出九億餘萬圓、輸入六億二千餘萬圓、其輸出入合計十五億二千餘萬圓を示し、大正十一年と略ぼ同額の殷盛なる實蹟を呈し、世上一般の注意を喚起した、而るに大正十五年には前年に比較して約二千萬圓の輸入増加に反し輸出は一億四千萬圓の減少を示し、昭和二年には更に前年より一層の不振を極め、輸出に於て千百三十五萬餘圓、輸入に於て六千四百八十一萬餘圓の減少を見た。

昭和三年に至つて、經濟界は引續き不況を持續し、前年より輸入に於て三千九百五十二萬餘圓の増加を示し、輸出に於て六百七十餘萬圓の減少を呈した、此の輸入の増加は木材鐵材の増加によるもので、之は震災復興事業進捗の反映に外ならぬ、輸出の減少は六月の端境期に、古糸の片付商内の始まるに及

んで、糸價暴落を來し、大正九年九月以降嘗て見ざりし相場を現出せること、及び爲替相場の崩落と動搖の影響を受けたことに原因する。

今大正十一年以降昭和三年に至る輸出入統計を檢討して、本港貿易の地位を窺ふに次の如くである。

全	昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年		大正十三年		大正十二年		大正十一年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
計	一、九七、九五五、三三	二、九三、三七一、三三	一、九三、三七一、三三	二、〇四、七七九、八一	二、三三、五九九、〇七	一、八〇、〇四、八七	一、四七、七五〇、七〇	一、三三、五五一、八八	一、四七、七五〇、七〇	一、三三、五五一、八八	一、四七、七五〇、七〇	一、三三、五五一、八八	一、四七、七五〇、七〇	一、三三、五五一、八八
國	二、二六、三四、七七	二、七九、一五、八八	二、二六、三四、七七	二、七九、一五、八八	二、三三、五九九、〇七	一、八〇、〇四、八七	一、四七、七五〇、七〇	一、三三、五五一、八八	一、四七、七五〇、七〇	一、三三、五五一、八八	一、四七、七五〇、七〇	一、三三、五五一、八八	一、四七、七五〇、七〇	
計	四、一六、三七、〇九	四、七二、四七、〇三	四、一六、三七、〇九	四、七二、四七、〇三	四、一六、三七、〇九	四、七二、四七、〇三	四、一六、三七、〇九	四、七二、四七、〇三	四、一六、三七、〇九	四、七二、四七、〇三	四、一六、三七、〇九	四、七二、四七、〇三	四、一六、三七、〇九	
横	七四、二六、二六	七九、〇〇、〇九	七四、二六、二六	七九、〇〇、〇九	七四、二六、二六	七九、〇〇、〇九	七四、二六、二六	七九、〇〇、〇九	七四、二六、二六	七九、〇〇、〇九	七四、二六、二六	七九、〇〇、〇九	七四、二六、二六	
港	六四、三三、二八	五九、八九、五一	六四、三三、二八	五九、八九、五一	六四、三三、二八	五九、八九、五一	六四、三三、二八	五九、八九、五一	六四、三三、二八	五九、八九、五一	六四、三三、二八	五九、八九、五一	六四、三三、二八	
計	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	一、三三、六六、五四	
全	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	三、八%	
國	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	二、八%	
計	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	三、三%	

即ち右表示の如く、本港の全國に對する輸出貿易の比率は、大正十一年に於ては五割五分を占め、全國過半の輸出を見たが、十二年には四割六分となり、十三年には三割七分、十四年には三割九分、十五年には三割七分と云ふ著しき減少を示し、昭和二年、三年には三割八分に増進したが、大正十二年以來

漸次減少の趨勢を呈しつゝある。

尙輸入に於ては、從來全國輸入の約三割を占めつゝあつたが、大正十二年以降下り坂となり、昭和三年には僅かに復興材料の増加によつて、二割八分の輸入率を示したのみである。

(二) 貿易品の内容

(1) 主要輸出品 (△印減)

品名	昭和三年		昭和二年		比較増減	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
生糸 (機械製)	五五一、四〇九	五八四、一〇三	△	三二、六九四		
蟹籠詰及蠟詰	一八、一五九	一四、三六一		三、七九八		
縮綿	一六、一七〇	一二、〇八〇		四、〇九〇		
小麥	一五、二〇八	八、〇五五		七、一五三		
羽重	一四、八六五	一五、〇三七	△	一七二		
毛皮	一、一七五	一、二一八	△	四三		
鐵	九八七	八二四		一六三		
キ	九七八	八〇〇		一七八		
斗	九一四	五五六		三五八		
三						

昭和三年中本港輸輸出額五十萬圓以上を數ふる商品に就き、前年との比較増減を見るに次の如くである。

鐵製	八七二	四二二	四六〇
綿織	八二九	一、三五三	五二四
漆器	八二一	七七五	四六
テーブルクロス	七二九	三三〇	三九九
醬油	六九八	五三三	一六五
眞田(麻製)	六二九	一、六五五	一、〇二六
薄荷	五九三	六九二	九九
肥料	五四三	三一三	二三〇
洋服	五三九	一、一九三	六五四
富士	一一、一三六	一一、一九四	九四二
精糖	一一、〇五五	九、〇三二	二、〇二三
ボロン	八、三九〇	七、一九三	一、一九七
魚油	五、七五五	五、二七七	四七八
電燈	三、五七八	二、一八四	一、三九四
手布(絹製)	三、四四五	二、四九〇	九五五
綿縮	三、三二〇	三、一九五	一二五
百合根	二、六三五	三、三七六	七四一
合根	二、三二九	二、二六七	六二

絹子(絹綿共)	二、〇三八	二、〇三〇	八
ベニ	一、八二〇	一、七二三	一〇七
絶縁電線	一、二五七	九四六	三一一
アンチモニ製品	一、二〇〇	八一七	三八三
其他	五七、二二〇	五三、〇〇二	四、二一八
合計	七四二、二九六	七四九、〇〇六	六、七一〇

右三十一品を以て、輸出總額の殆ど九割二分を占めてゐるが、就中生糸は輸出總額の七割四分を占め、景況如何は、直に我國輸出貿易の消長に重大なる反響を齎すのである。

云ふ迄もなく、生糸は我國の特産品であつて、米國は世界生糸の六割を消費し、我輸出生糸の九割四分を消費する重大の顧客である。而も其大部分は、横濱を經由して輸出せらるゝ爲め、同國の景況如何は、直ちに本港の繁榮を左右する密接の關係にあるのである。

(口) 主要輸入品 (△印減)

昭和三年中本港輸入品中百萬圓以上の商品を擧ぐれば次の如くである。

横濱港の主要輸入品並に輸入高

線	昭和三年	昭和二年	比較増減
綿	五二、〇九八	五四、〇六〇	一、九六二
			五

製紙用バルブ	三、四四〇	三、八四九	四〇九
印刷料紙	三、二七九	三、七八四	五〇五
發電機電動機類	三、二八六	一、七九九	一、四八七
小豆	三、〇八二	一、九九五	一、〇八七
磷石	三、〇四二	二、七七〇	二七二
牛肥	二、七九八	二、五九七	二〇一
牛皮	二、七三四	二、五三一	二〇三
マニラヘンブ	二、六一八	三、七三二	一、一四
電信機電話機及同部分品	二、四二七	二、八八五	四五八
亞鉛(塊錠及粒)	二、四一九	一、九五四	四六五
金屬工及木工機	二、三八〇	一、六四二	七三八
毛織糸	二、二四二	四、三九四	二、一五二
硝酸曹達(粗製)	二、二〇二	二、三四六	一四四
自轉車及同部分品	二、一五六	二、〇九二	六四
松脂	二、〇六四	一、九八八	七六
書籍及雜誌	二、〇五三	二、二五三	二〇〇
錫(塊及錠)	一、九四一	三、一五二	一、二一一
アルミニウム	一、八八四	一、二三七	六四七

鐵及鋼	五一、二八六	五〇、九五〇	三三六
木材	四九、八四七	四三、六一九	六、二二八
小麦	四〇、四一五	二六、二一〇	一四、二〇五
羊毛	三五、四四七	二七、九三〇	七、五一七
砂糖	二五、四五六	二七、二〇八	一、七五二
油糟	二二、九九九	二九、一一五	六、一六
原油	一二、七一〇	一〇、〇一八	二、六九二
大豆	一二、四七六	一〇、三七〇	二、一〇六
自動車及部分品	一八、二六四	一一、六四三	六、六二一
硫酸曹達(粗製)	一二、六一七	一三、二二一	六〇四
米及穀	九、七〇五	二〇、五六八	一〇、八六三
石灰	八、一四三	七、八一七	三二六
毛織物(綿入共)	七、六〇四	八、八三二	一、二二八
鉛(塊及錠)	七、二二三	六、九〇二	二二一
生油	五、〇〇二	五、四〇五	四〇三
煙草	四、八七四	五、六一五	七四一
亞麻苧麻及ラミ	四、二八九	三、一三〇	一、一五九
穀	四、〇四一	三、七二七	三一四

苛性曹達(粗製)	一、七四六	一、一六一	五八五
胡麻子	一、七二〇	一、五四三	一七七
硝子板	一、七二五	一、七〇四	二一
バラフキンワックス	一、六四三	一、五八六	五七
包装用紙	一、五一四	二、二七〇	七五六
縫衣機	一、五三八	三、四〇七	一、八六九
曹達灰	一、四八三	二、三七二	八八九
寫真用フキルム	一、四一一	一、四二六	一五
セ・ル・ラ・ツク	一、二六三	一、〇九八	一六五
機械用フェルト	一、二九	六八〇	六一九
石絨(塊粉及纖維狀)	一、二二一	一、一八三	三八
汽罐同部分品及附屬品	一、二一九	一、〇四二	一七七
理化學器及同部分品	一、二七八	七六一	四一七
印刷機	一、一四二	一、一九五	五三
印物性芳香油	一、一二六	五二四	六〇二
炭	一、〇二八	九七四	五四
農工匠具及同部分品	一、〇二七	一、四三六	四〇九
農工匠具及同部分品	一、〇〇四	八〇八	一九六

其 他 一五九、六一三 一三六、三一〇 二二、三〇三
 合 計 六一四、三四三 五七四、八二〇 三九、五二三

以上五十五品を以て、輸入総額の七割六分を占めてゐるが、機械を除く外は、原料品及半製品又は食料品である。

而して本港輸入総額に對する各國の割合を見るに、北米合衆國は三割四分三厘を占め、次で英國の九分四厘、支那の八分四厘、獨逸の七分四厘、濠洲の七分一厘、關東州の六分五厘、蘭領印度の六分二厘、加奈陀の五分五厘と云ふ順位を示してゐる。

輸入品の大宗品を爲すものは繰綿で、輸入総額の八分を占め、以下鐵及鋼の八分、木材の八分、小麦の七分、羊毛の六分、砂糖の四分、油糟の四分である。

輸入繰綿の五割二分と木材の八割四分は北米合衆國より、小麦の四割六分は加奈陀より、羊毛の九割五分は濠洲より、鐵及鋼は北米合衆國、支那より、油糟は關東州より多く輸入される。

(三) 國別貿易

本港貿易は生糸貿易に偏重せるの結果、其貿易の相手國は、主として北米合衆國であつて、其他諸外國との貿易關係は、甚だ薄弱である。今本港昭和三年中に於ける通商國別輸出入價額を見るに、輸出にあ

つては、北米合衆國を首位とし、次で佛國、支那、英國、關東州、英領印度、加奈陀、濠洲の順位である。
輸入にあつては、輸出と同じく北米合衆國第一を占め、英國、支那、獨逸、濠洲、關東州、英領印度、加奈陀の順位である。

先づ輸出の相手國を見れば左表の如くである。

(イ) 横濱港の輸出相手國並に國別輸出額

相手國	昭和三年	
	千円	輸出總額ニ對スル割合
北米合衆國	五五七、五二八	七・五〇
佛國	四七、二八九	〇・六〇
支那	三一、四二五	〇・四〇
英國	一八、八二六	〇・三〇
關東州	一四、一五〇	〇・二〇
英領印度	一三、一九五	〇・二〇
加奈陀	一〇、九三三	〇・二〇
濠洲	九、七一四	〇・一〇
比賓洲	二、五六四	〇・〇三
香港	二、二三四	〇・〇三
蘭領印度	二、二二二	〇・〇三

海峽殖民地	一、〇七五	〇・〇一
其他	三一、一六一	〇・四〇
合計	七四二、二九六	一〇〇・〇〇

右の諸國に對する主要輸出品を、昭和三年の統計に就て見るに、北米合衆國向輸出の九割一分は生糸であり、生糸以外では蟹罐詰、ボンジー、電燈球、羽二重、屑糸、百合根、絹手巾、毛皮等である。

對佛輸出に於ては、生糸七割一分、羽二重一割、屑糸九分、ペニー三分が主なるものである。

對支輸出に於ては、小麥粉三割六分、精糖三割一分、印刷料紙三分の割合である。

英國向輸出の三割一分は蟹罐詰、一割八分は生糸、一割二分は羽二重、四分は富士絹と云ふ割合である。

關東州向では小麥粉二割四分、精糖七分が主であり、英領印度向では縮緬三割一分、富士絹一割八分、羽二重一割二分を占め、絹手巾、絹縞子の順序である。

加奈陀向輸出に於ては、縮緬二割九分、生糸二割八分、富士絹一割三分の割合である。濠洲向では富士絹三割八分、縮緬二割九分と云ふ割合である。

(ロ) 横濱港の輸入相手國並に國別輸入額

昭和三年

本港輸入ニ對スル割合

北米合衆國	二一〇、八〇九	三・四三
英國	五七、四九四	〇・九四
支那	五一、八六六	〇・八四
獨逸	四五、三二〇	〇・七四
濠洲	四三、九〇七	〇・七一
關東州	四〇、〇八七	〇・六五
英領印度	三七、九二四	〇・六二
加奈陀	三三、四八三	〇・五五
其他	九三、四五三	一・五二
合計	六一四、三四三	一〇・〇〇

北米合衆國よりの輸入品に於ては、木材が二割、線綿が一割三分、原油及重油が八分、自動車及部分品が八分、鐵が七分、小麥粉が五分、銅鉛等が主なるものであつて、其大部分が生活必需品であり、且つ今後共輸入増加の傾向あるもののみである。英國よりの輸入品は鐵が二割、毛織系が一割一分を占め、其他硫酸アンモニア、縫衣機、印刷料紙等が主要品である。

支那よりの輸入に於ては、牛皮一割九分、豆糟一割九分、麻類九分、蠟六分等を主とし、次は石炭、

胡麻子、木炭等である。獨逸よりの輸入品は、主として人造肥料であつて、硫酸アンモニア一割二分、硫酸加里五分と云ふ割合である。濠洲よりの輸入に於ては、羊毛七割七分、小麥九分、獸脂六分を占め、關東州よりの輸入に於ては、大豆三割、豆粕二割八分を占め、石炭、小豆、銑鐵等が主なるものである。蘭領印度の輸入に於ては、砂糖六割一分、礦油、原油及重油、パラフィンワックス等である。加奈陀より輸入は、小麥の五割六分、鉛一割、製紙用バルブ八分を占めてゐる。

二、内國貿易

(一) 概 説

横濱港の内國貿易は、荷扱の點から見て之を二種類に分つて觀察するのが便利であると思ふ。一は内地他港との間に純然たる内國貿易で、横濱を陸揚地又は積込地とするもの、二は所謂伸繼貨物の貿易である。横濱港を起點として内外國諸港に仕向けられる貨物が海路横濱迄出て來る場合、及横濱港着の内外國諸港仕出貨物が海路其消費地乃至荷捌地に至る場合は、之等貨物は横濱港内で船から船へ積替へられ横濱の陸上とは何等の關係をも生じない。之を伸繼貨物としての内國貿易とするのである。

横濱は間近に東京を控へて居り、東京は旺盛なる消費力と生産力とを具有しながら外國に對する直接

の輸出入及内地各港に對しても大型船舶による直接の移出入を行ふには港灣設備が尙不十分な爲に、之等の内外國貿易に於ては横濱港を通じて之を行ふ關係上、京濱間の海上運送が多量に上るのは當然のことである。尙港灣設備や商取引機關の缺陷等から直輸出入を不便又は不可能とする東北地方の諸港灣と横濱との間にも此仲繼貨物としての内國貿易が行はれて居るので、之を總體の數字から見ると横濱港の内國貿易貨物の内其六割強は之等仲繼貨物の占むる所となつてゐる現狀である。横濱市港灣部の調査に係る統計により昨昭和三年一ヶ年間の内國貿易總貨物と仲繼貨物との比較を見ると次の通りである。

種別	内國貿易總數量		仲繼貨物數量 ノ占ムル割合	
	出港	入港	出港	入港
出港	五、八七六、〇〇一噸	四、四一七、三〇五噸	七五%	四五%
入港	四、四七五、四七八噸	二、〇七五、〇一六噸	四五%	四六%
合計	一〇、三五一、四七九噸	六、四九二、三二一噸	六三%	六三%

而して右仲繼貨物の占むる比率は、東北地方諸港灣の設備改善、外國直通航路の開始及直接貿易に必要な諸機關の發達等に伴ひ、又一方東京芝浦の繫船岸壁の完成等に因由して従前に比べると當然減退して來たのであり、將來も更に減退の傾向を持續するものと思はれる。従つて横濱港内國貿易總額は仲繼貿易額の減少に伴つて減少するかもしれない。尤も別に一方には、目下工事進行中の港内々國貿易用繫船岸壁や私設の大規模陸揚設備等による陸揚、船積費の低減により陸上倉庫其他の諸設備の完成と相俟つ

て從來東京を陸揚地としてゐた貨物も横濱を荷捌地とする方を便利とする様なものも出來やうし、鶴見川崎方面の工場地帯の發展充實に伴ふ生産消費貨物の増加等純粹の内國貿易額が増加すべきことも豫想されるから、一概に横濱の内國貿易高が將來仲繼貨物の減少丈に原因して減少するものとは即斷出來ぬ。

大體内國貿易を廣義に解する時は上記仲繼貨物も其一部と見られるけれども仲繼貿易は單に横濱港内に於て荷役が行はれる丈のことで、一方横濱港を中心とする商取引を形態化した純粹の内國貿易とは其の間自ら意義を異にする所がある。

以下統計に基いて過去數年間に於ける横濱港内國貿易を検討して見やう。本調査に用ふる統計資料は内務省土木局の帝國港灣統計及昭和三年横濱市港灣統計であつて前者には仲繼貨物と純貿易額との内譯なく又兩者共仲繼貿易貨物に就ては、移入して移出したもの、移入して輸出したもの、輸入して移出したものの等何れも各移輸入双方の額中に一度づゝ計上してあるから其合計數字と實際入出港せる貨物の數額とは著しい相違を來すのであつて、是を専ら荷役や、港灣設計等取扱延數額を必要とする計算に使用する場合は兎に角、只單に貿易數額を検するには不適當な點もあるわけであるが、外に内國貿易に關する統計のない今日之による外致方がないのであるから此點豫め注意を要する。

(二) 入出港貨物の數量及價額

昨年横濱出港の内國貿易貨物は約五百八十萬噸其價額約四億八千萬圓、入港の夫は約四百五十萬噸其價額約二億八千萬圓である。

今大正七年以後の情勢を見るに、出港數量に於ては大正十四年迄三四百萬噸臺を上下し最近三ヶ年間に増進して昨年に至り約一倍半に達し、入港數量に於ては大正八年の四百二十萬噸を最高として以後逐年減少の跡を示し、大正十五年から舊狀に回復し昨年に至り漸く一割七分の増加を示した。

前述の如く數量に於ては出港共多少の増加傾向を示して居るに不拘、翻つて價額に於て之を見ると、出港は大正八年の八億六千萬圓(約四割増)を頂點として九年以降減退を重ね、昨年に至つては大正七年に比して其七割八分に低減し、更に入港の分に至つては昨年に於て五割強に低落して居る。

大正七年は財界次第に好況期に轉ぜんとした年であるから此年を基本として考へれば後年諸物價の低落した爲其價額も従つて低減したことも當然であるが、入港價額の約半額迄も下つた原因としては、別に大震災後の入港貨物が所謂復興材料たる砂利、土砂、木材、セメント、鐵材等の重量貨物を多量に含むだことも亦確かに基因をなして居らう。入出港數額の年次の實數及其増減率は左表の通りである。

年次	出港數量	同價額	入港數量	同價額	入出港合計數量	同價額
大正七年	三,五九,四八八	六,六二,一五七	三,七四,四七四	五,七,八五五	七,二六,六一三	一,二三,九五一
大正八年	四,四二,一五五	八,五二,四六〇	四,三二,〇一四	五,九,五五五	八,三二,二一六	一,四二,〇一五
大正九年	三,九八,三五四	七,五,三六一	三,九三,四四五	五,五,五〇〇	七,七二,八六一	一,〇九,八九一
大正十年	三,三〇,八五一	四,九,四三三	三,〇六,四七六	三,七,〇六六	六,四一,五〇七	八,六,五九五
大正十一年	四,三三,三六三	五,三,一五九	三,六三,五五六	三,九,二〇九	八,〇〇,九〇〇	九,三,四一五
大正十二年	三,七三,八九九	四,三,七〇三	二,六五,二七五	二,五,五三三	六,三九,〇四四	六,九,三三〇
大正十三年	四,一六,八九三	四,九,九六六	二,八七,五三三	二,四,八七七	七,〇四,四四一	七,〇,八四一
大正十四年	三,九三,三七五	三,〇,四三三	二,九三,二四六	一,五,八三〇	六,八三,九三二	五,六,二六八
大正十五年	四,九八,九四五	五,三,二六六	四,〇〇,七六六	二,九,〇七六	九,〇一,〇四三	七,七,三三三
昭和二年	五,一六,二四一	四,六,四九五	四,〇八,八〇九	二,四,一四七	九,一三,〇五五	七,七,六四二
昭和三年	五,八六,〇〇一	四,七,八四三	四,四七,四七六	二,九,七三三	一〇,三,五七六	七,九,四五六

大正七、八年 左欄は朝鮮貿易高

入出港貨物増減率表

年次	出港數量	同上價額	入港數量	同上價額
大正七年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
大正八年	一〇九	一四〇	一〇九	一一〇
大正九年	一〇九	一一三	一〇九	一〇五
大正十年	〇九二	〇八一	〇八一	〇七一
大正十一年	一〇三	〇八七	〇九四	〇七〇
大正十二年	一〇四	〇六九	〇六九	〇五二

同十三年	一・一六	〇・七三	〇・七五	〇・五二
同十四年	一・一〇	〇・六二	〇・七六	〇・三〇
同十五年	一・三九	〇・八三	一・〇五	〇・四九
昭和二年	一・四四	〇・七六	一・〇六	〇・四七
同三年	一・六四	〇・七八	一・一七	〇・五三

(三) 他港との比較

昭和二年の帝國港灣統計により内國貿易上に於ける他港と横濱港との數額を比較すれば左表の如くなる。

即ち入港數量の比較に於ては、大阪の七百二十七萬噸、東京の五百六十三萬噸に比して横濱は四百六十萬噸で第三位にあり、神戸の四百一萬噸に比して稍上位を保つてゐる。出港に於ては若松の八百五十萬噸に次ぎ横濱は五百十六萬噸で第二位にあるが、若松は殆んど石炭専門の積出港だから一般の貿易港としては横濱が第一位にあるとも云ひ得るので、第三位の大阪は三百八萬噸、神戸に至つては二百萬噸に過ぎぬので其開きは可成甚しい。

而るに價額の比較に至つては入港は大阪の十億三千萬圓、東京の五億八千萬圓、神戸の五億圓に比し

て横濱は僅かに二億五千萬圓弱で、函館(三億圓)、下關(二億六千萬圓)の下に位し、全國中漸く第六位を占むるに過ぎない。又出港に於ては大阪の十億七千萬圓、神戸の六億二千萬圓に比して横濱は四億六千萬圓で第三位を占めてゐる。

之を要するに阪神二港に比し數量に於てよりも價額に於て甚しい差異のある理由は、彼地に於ての入出賃が比較的精製品や半製品を多分に含んでゐるのに對して横濱の夫れは石炭、木材、砂利等の重量品や粗賃がより多くの部分を占めて居る爲と見られる。

全國中昭和二年入出港合計數量一〇〇萬噸以上又は其の一方が五〇萬噸以上の諸港

港名	入港噸數	同上順位	出港噸數	同上順位	合計噸數	同上順位
函館	一、七二四、一五二	七	一、九四三、〇八〇	七	三、六六七、二三二	七
室蘭	一八二、一六七		二、三〇八、六三七	四	二、四九〇、八〇四	九
小樽	七四九、四一二	一一	一、三五七、五〇九	八	二、一〇六、九二一	一〇
東京	五、六三〇、九二三	二	四四七、三七三	一一	六、〇七八、二九六	四
大阪	七、二七四、六三九	一	三、〇八三、四八四	三	一〇、三五八、一二三	一
横濱	四、〇六八、八〇九	三	五、一六一、二四一	二	九、二三〇、〇五〇	三
神戸	四、〇一七、九四四	四	二、〇一四、三三〇	六	六、〇三二、二七九	五

名	青	下	門	若	堺	飾	尼	新	清	伏	港	函	室	小	東	大
古	森	關	司	松	磨	崎	湯	水	木	名	館	蘭	構	京	阪	
三、〇〇四、八九四	七、一六、三八九	一、四八四、七九一	二、七三〇、〇〇二	七〇三、九三四	五八五、八六一	五二〇、八九〇	六三〇、四四二	六八四、八三一	七六八、四八六	七五六、六三五	一〇	三〇四、七四七、七六六	二六、〇九六、一八二	一二六、四九三、三〇六	五八七、三六七、四一五	一、〇三一、二七二、八七六
五	一二	八	六	一三	一六	一七	一五	一四	九	一〇	同上順位	四	九	二	一	
六四三、四四一	三〇二、八三九	九四八、九八九	二、〇八六、四三五	八、五七〇、四五二	一〇五、四四九	一五五、六二七	一〇〇、〇四四	一三八、〇六九	九五、三三五	二四〇、八九七	同上順位	一八四、七八四、六八七	九四、八〇三、四二三	九八、二四八、五五九	九八、九〇三、一九九	一、〇七六、二九一、二一五
一〇	一二	九	五	一	一六	一五	一七	一四	一八	一三	同上順位	六	九	八	一	
三、六四八、三三五	一、〇一九、二二八	二、四三三、七八〇	四、八一六、四三七	九、二七四、三八五	六九一、三一〇	六七六、五一七	七三〇、四八六	八二二、九〇〇	八六三、八二一	九九七、五三二	合計價額	四八九、五三二、四五三	一二〇、八九九、六〇五	二二四、七四一、八六五	六八六、二七〇、六一四	二、一〇七、五六四、〇九一
八	一一	一〇	六	二	一	一	一	一	一	一	同上順位	五	八	四	一	

全國中昭和二年入出港合計價額一億圓以上又は其一方が五千萬圓以上の諸港

横	神	名	青	尾	下	門	若
濱	戸	屋	森	道	關	司	松
二四九、一四七、四八八	五〇〇、五三三、七二三	一二三、三四九、六八六	六八、八〇四、七七三	五七、〇七四、三九五	二六六、三二四、六六七	二三九、五四七、三五二	二〇、六四五、二七七
六	三	八	一〇	一一	五	七	七
四六八、四九五、二四五	六二三、二三四、三一七	三五、三三六、九五六	五六、二九一、九三四	六四、九四〇、七五四	一九四、四六四、五〇七	二一四、一八二、五九七	一六五、四二二、二一〇
三	二	一一	一一	五	四	四	七
七一七、六四二、七三三	一、一二三、七六八、〇四〇	一五八、六八六、六四二	一二五、〇九六、七〇七	一二二、〇一五、一四九	四六〇、七八九、一七四	四五三、七二九、九四九	一八六、〇六六、四八七
三	二	一〇	一一	二	六	七	九

註 前述の通り右二表の數字中には各港共入出港の數字中に重複の部分を含み、而して其重複の部分の全量に對する比率は各港の事情に從つて一様でないから一概に此延取扱數字のみを以て各港の取扱高順位を決定するのは、其間不穩當な點のあるを免れぬが、外に適當な比較數字がないから暫く之によるの外はない。

(四) 外國貿易との比較

前掲の如く横濱港の内國貿易に於て石炭、木材の如き重量品が主要部分を占むるの一事は其外國貿易品との價額比較に於ても明瞭に觀取し得られる。即ち左表の通り、過去七年間の統計に見るも價額に於ては移入二〇%乃至三六%に對し、輸入八〇%乃至六四%、移出三〇%乃至四〇%に對して輸出七〇%乃至六〇%なるに、數量に至つては其輸移入の點に於てこそ相當の率を示してゐるが、輸移出の對照に

於ては移出九六%乃至九二%に對して輸出は僅かに八%乃至四%と云ふ甚しい比率を示すことによつて窺はれる。

輸移入數量の比率が輸移入價額のそれに接近してゐるのは、移入品中に石炭、土砂等の重量品を含むと同時に輸入品中にも木材、鐵類等の重量品が可成りある爲で、輸移出數量の比率が其價額と甚しく開いてゐるのは移出の方に石炭、木材等を含むに反して輸出品の方には生糸の如き高價輕量品を含む爲と解せらるゝ次第である。

輸移入高の年次的比較表

年次	實量比較			實額比較		
	移入	輸出	移入輸出比率%	移入	輸出	移入輸出比率%
大正十一年	三、六三、五八	四、一六、〇〇	八五	三、九一、二九	六、五、四三、〇九	六〇
同十二年	二、六五、二七五	三、五九、三六	四二	二、七五、五二、八六	五、五、二九、八四	五〇
同十三年	二、八七、五三	三、五〇、〇九	四二	二、七四、八七、三六	六、〇、八三、六五	四五
同十四年	二、九〇、三、四六	三、四六、三六	四四	二、七〇、八七、〇	六、四、九、九三	四〇
同十五年	四、〇〇、七六八	四、六九、八八	四四	二、九〇、〇七、四〇	六、五、〇、七六、五三	四三
昭和二年	四、〇六、八八〇	五、〇九、五三	四四	二、九八、二七、四六	五、九、二、四八、八七	四〇

同三年 四、四七、四六 五、九五、八三六 四三 五七、七三、二〇八 五、八、三、五、二七三 三六

二、移出

年次	實量比較			實額比較		
	移出	輸出	移出輸出比率%	移出	輸出	移出輸出比率%
大正十一年	四、三三、三六二	三、三三、四三	一三〇	五、三、一、二、三六	八、九、四、三、二四	七三
同十二年	三、七三、八八九	三、五、四七	一〇六	四、三、七、〇、三〇	六、六、六、二、〇七	六二
同十三年	四、一六、八九二	一、八二、一六九	二二八	四、四、九、六、六二	六、五、七、一、〇九四	四〇
同十四年	三、九六、二七五	三、六、九二	一〇八	三、〇、四、五、七、四八	六、七、八、六、三、一	四三
同十五年	四、九六、九四	三、〇、七〇八	一六四	五、三、一、五、七、六〇	八、〇、二、五、八、八八	六六
昭和二年	五、一六、二四一	四、〇、四九〇	一二七	四、六、四、五、二、四五	七、四、一、〇、六、三、四	六二
同三年	五、八七、〇〇一	四、九四、〇六四	一二八	四、九、八、四、三、二二	七、九、五、一、六、四三	六四

註 本項に於ける移出の文字は前掲の出入港貨物の謂で只輸出入の語に對比する爲に用ゐたに過ぎぬ

(五) 取引地方

横濱港の取引港を地方別に見ると、入出港貨物双方共東京灣内諸地方を第一とし、殊に出港に於ては總數量の大部分が東京灣内諸地方の占むる所であるが、之を更に分類すれば其内の大部分は所謂仲繼貨

物として東京に仕向け或は東京から積出さるゝものである。入港貨物に於て東京の次に位するものは臺灣であつて主要品は米と砂糖である。之に次ぐものを北海道及九州の石炭とする。詳細は左の二表によつて明瞭である。

地方別入出港貨物數量及價額 (昭和三年)

地方名	出港數量	同上價額	入港數量	同上價額
東京灣内	五,五九四,四三三	四三〇,六七三,八三二	八,九四〇,四三三	六,八四〇,五七七
大島、八丈島	四,三〇〇	四五二,一六七	五,三五六	四三三,八四四
小笠原島	一〇,一四四	九六,四四六	三,〇八二	六三,二五九
三陸方面	九三三	六九,五五〇	五,一六八	三〇〇,六七七
東海方面	四,五八〇	六五九,三七〇	五,九三三	三三,五五七
尾勢方面	三	三	二,〇六三	一六六,六〇五
紀伊方面	六九,六一	八,四四二,一六八	六,三六六	一七,〇三二,六五五
阪神方面	三,六三〇	三,六四一,二四二	二五,九六六	五八,四八一
中國方面	三,六六	三,六六七	三,九五五	五八,二五三
四國方面	八,四九四	一,六七一,一六八	一,二二二,四二二	三,六五五,五六
九州方面	二二	二〇,七五五	三〇,四七七	二,四八九,三三八
大東島	一六九	二五,九三三	一三,五五五	四四四,三三七
ラサ島				

〔川崎、大森、東京、野田、船橋、千葉、姉ヶ崎、木更津、富津、湊、保田、船形、館山、布良、白濱、千倉、金澤、横須賀、浦賀、三浦、其他〕

〔鹽釜、氣仙沼、大船渡、釜石、宮古、青森、其他〕

〔須賀、真鶴、網代、宇佐美、伊東、川奈、稻取、下田、清水、其他〕

〔龜崎、常滑、名古屋、大口、其他〕

〔引本、勝浦、古座、串本、其他〕

〔大阪、神戸、其他〕

〔尾道、吳、宇品、徳山、宇部、下關、彦島、其他〕

〔小豆島、坂出、高知、其他〕

〔門司、若松、八幡、博多、唐津、佐々、相浦、崎戸、松島、長崎、高島、住ノ江、三池、水俣、鹿兒島、津久見、其他〕

〔函館、室蘭、釧路、根室、網走、小樽、其他〕

〔大泊、東知取、内路、泊居、惠須取、野田、眞岡、留多加、其他〕

〔釜山、馬山、木浦、群山、仁川、兼二浦、九味浦、鎮南浦、新義州、元山、清津、雄基、其他〕

〔基隆、高雄、安平、其他〕

〔サイパン島、ヤップ島、トラツク島、バラオ島、アンガウル島、ボナペ島、ヤルト島、クサイ島、其他〕

主要取引港 (昭和三年度に於て數量一萬噸以上又は價額百萬圓以上のものを掲ぐ)

一、出 港

港名	數量	價額	主要取引品
北海道	七,〇一七	一四,〇八,三四	三〇,五三,〇七七
北 海 道	一	一	八,九七七,三〇〇
勸 察 加 沖	一	一	二,五三〇
樺 太	一,一四九	二,七七,四〇	一六,三三六
朝 鮮	二,四八七	六,八〇,三三	一三,一四六
臺 灣	三,三三九	五,五〇,八九	四五〇,五三二
南洋諸島	三,七六一	四,〇五,三九	四三,二七六
其他ノ地方	四八〇	九〇,九四	三,三三三
合 計	五,八六,〇〇一	四九,八四三,四三	四,四七五,四七六
川 崎	一六,一五〇	三六,二六四,一九	二九,七〇三,〇一六
大 森	一三六,四七九	一,六二,〇〇四	二九,七〇三,〇一六
東 京	五,一八四,三二七	三九三,三〇一,二二九	石炭、砂糖、小麥粉、鐵、棉花、セメント、鐵製品
横 須 賀	五,三三三	七,五七七,六三六	石炭、木材、鐵、砂糖、小麥、板、セメント、大豆等
浦 賀	一四,六六八	九四,九七七	石炭、鐵、木材、砂糖
大 阪	六,〇五五	七,六八,三九九	鐵管、石油、鐵、機械類、板

門司	下關	函館	小樽	基隆	室蘭	大泊	仁川	鎮南	元山	高雄	サイパン	二入港
五、七四	三、〇二八	一四、〇六二	四、九二二	二、八〇〇	七、九六六	五、八四四	六、一五九	四、五七九	四、〇九九	八、〇六五	七、四四〇	二、八〇〇

門司	下關	函館	小樽	基隆	室蘭	大泊	仁川	鎮南	元山	高雄	サイパン	二入港
一、六〇、二九〇	二、五九、六六七	三、八〇七、六四四	八、四八八、一〇五	三、四六、一九九	一、〇六、三六六	一、〇九、二六二	一、九八、六三二	一、二五、五五三	一、九八、八三三	一、五八、五二八	一、八六、九五七	一、八三、四〇二

自轉車、バルブ、人造肥料、レール、機械類
 石油、揮發油、自動車
 揮發油、苧及麻、機械類、石油、砂糖、麻糸
 鉄力板、小麥、甘藷切干、小麥粉、機械用油
 自動車、鹽化加里、鉄力板、機械類、小麥粉
 レール、甘藷切干、曹達灰、石油、毛織物、機械類、板鐵
 松脂、鐵、機械類、鐵製品、機械用油
 自動車、葉煙草、小麥粉
 葉煙草、鐵、自動車、鐵製品、魚油
 機械類、小麥粉
 人造肥料、自動車、鐵製品、鹽化加里、石油
 土煉瓦、外米、木材、鐵製品、食料品、板
 薪、木炭、藁、米、鮮介魚、蔬菜

眞鶴	大坂	神戸	宇部	門司	若松	八幡	唐津	住江	三池	博多	相浦	崎戸	松島	高島	津見	大東	ラサ
二六、〇〇八	四三、〇六八	一九、〇五六	一九、三三二	七五、三五四	四八、一〇一	二一〇、八三〇	二九、八四〇	一一、二六六	六〇、八〇四	三五、四〇九	二六、〇四七	三三、二二八	三五、五七二	二七、八八一	一九、四四四	三〇、四七七	一三、五五五

眞鶴	大坂	神戸	宇部	門司	若松	八幡	唐津	住江	三池	博多	相浦	崎戸	松島	高島	津見	大東	ラサ
八四、〇三三	二、八四七、〇八一	四、三三、五九四	二七、〇五一	二、四三、〇九六	七、三三、八七四	二、三九、六〇〇	一、七四九、八三三	一、六五、六三二	五、二七、七五四	五、二六、三六六	三七四、二二九	三三四、六三三	三五五、六四〇	二五八、四九六	五三、七五七	二、四九九、三三八	四四、三三七

石 材
 自動車、レール、鐵管、鐵、石材、砂糖
 鐵管、自動車、薬製品、鐵、鐵製品
 石 炭
 セメント、礦物製品、鐵
 石炭、コークス
 鐵、レール、セメント、鐵製品、鐵
 石炭、コークス
 石 炭
 石炭、コークス、亜鉛、染料、鉛、石炭酸
 石 炭
 石 炭
 石 炭
 石 炭
 石 炭
 セメント
 燐礦石、酒精
 燐礦石、鐵

函館	一六、五八	四、七五、九〇	食鹽、セメント、魚油、鮭罐詰、大豆、魚糟
室蘭	九五、二六五	三、九四、〇五	石炭、板、鐵、鐵製品、木炭、米、木材
釧路	一〇七、〇四〇	六、三六、七〇	石炭、パルプ、木炭、大豆、木材、洋紙、小豆
小樽	二五七、三五〇	五、四四、〇七	石炭、小豆、米、隠元豆、洋紙、砂糖、板
勘察加沖	二二、五二〇	八、九四、三〇〇	蟹罐詰
大泊	二〇、五九	一、二九、三三	洋紙
留多加	一九、二六二	四九、〇三	木材
鎮南浦	八、九三	一、二九、九七五	米、大豆、黒鉛、糖
仁川	一八、八九	一、七四、三六	木炭、米、糖、飼料、大豆
兼二浦	五、五〇六	二、六四、四二	銑鐵、石炭、米
清津	一〇、一三三	一、〇六、一六	小豆、魚油
基隆	二二、三三	二、六、〇三、六七	米、砂糖、木炭、甘藷切干、木材、苧及麻
高雄	三三、九七	六、三三、七九	砂糖、米、バナナ、甘藷切干、木材、鮮介魚
サイパン	一一、〇五	二、六四、八五	砂糖、木炭、コブラ、酒精
アンガウル島	二〇、二五	六、七、九三	燐礦石

(六) 入出港主要品

入港諸品中の主なるものは臺灣米、砂糖、蟹罐詰、石炭、土砂、木材等で昭和三年の統計で之等が全

入港品に對する割合を見ると數量に於ては臺灣米の二%、砂糖七%、土砂七%、木材四%、而して石炭は實に五〇%の多きを占めてゐる。價額の方では臺灣米は六%、蟹罐詰が四%、石炭は一二%に止り、銑鐵は一〇%、自動車及同部分品が四%、そして砂糖が三一%を占める。

出港諸品中の主なるものは數量に於ては砂糖、石炭、銑鐵、木材、重油、鍊鐵、機械及同部分品、豆糟等を數ふべく、其割合は夫々砂糖六%、銑鐵二%、重油二%、鍊鐵六%、機械及同部分品三%、豆糟八%、の外木材の二〇%及石炭の二九%が大關である。價額の方では蟹罐詰、石炭、羊毛が各五%、鍊鐵、棉花が四%、鐵管は二%に止り、機械及同部分品が三%、豆糟が八%、そして砂糖が一九%を占めてゐる。

詳細は左表の通りである。

入港主要品表 (昭和三年度) (一萬噸以上又は百萬圓以上の額に上るもの)

臺灣米	一、〇一〇、七〇	一七、九八、四五	朝鮮米	二五、六三	四、四七、四〇
大豆	八、〇四	一、〇五、七九	食鹽	一九、九三	九四、九二
鮮魚	一三、五三	四、〇四、〇五	甘藷切干	三、七四	一、〇五、三六
バナナ	五、五元	三、三六、七五	醬油	一、六三〇	一、〇四、一〇

砂	糖	三三、五七一	八五、六九、五八〇	清酒	三、七四六	一、四四〇、七九六
菓實罐詰	子	三、三〇〇	一、〇九六、四二五	蟹罐詰	一七、六八	三、三三三、六五〇
酒	精	四、四二六	一、〇四六、八九三	鯨油及魚油	一一、五七	一、七七一、六〇〇
和紙及洋紙	紙	六、四四六	五、六六七、八九六	パルプ	二七、六五	三、五二五、五五九
石炭	炭	一七、四八八	四、八八八、九四四	燐石	五九、九三〇	一、九六六、〇八
土砂	砂	二、二五八、三九	三、七四、六九	矽石	二五、二九九	二〇、六四二
石	材	三〇七、〇三	六三、三三	砂利	四六、〇五	一〇、六五
セメント	材	五五、五六	二、三三、六九	コークス	九三、三四	二、五〇七、三七六
鍊鐵	管	九五、五四	二、六七、四一	銑鐵	五、九八三	二、六六八、八九
鐵	管	六、七三	七、五三、三五	其他ノ鐵	四〇、三一	一、三三〇、五九
レール	管	三、八三	二、三三、四六	亞鉛	九、五八	三、三三〇、二九九
硝子	管	三、三六	三、五、九七	電鍍板鐵	七、九三	一、五八八、八九
自動車及同部分品	管	五、一八〇	三、五、三六	機械及同部分品	六、六一	三、九一、四一
板	管	五、八〇三	一、五〇、九〇	木	二〇、二三	五、四七、一一
コ	管	九、二八	一、八〇〇、四一	木炭	二六、六八	八〇五、六七

出港主要品表 (昭和三年度)

(一萬噸以上又は百萬圓以上の額に上るもの)

臺灣米	四、八七七、七四六	外米	二九、七三	三、九三三、〇八七
小麥	九四、八五四	大豆	七三、四三	八、〇六六、八三五
小豆	一〇、四九	甘藷切干	二六、六九	四、九六、七三
食鹽	五五、五六	麥酒	一八、九六	九〇八、五七〇
バナナ	三六、三三〇	菓子	四〇、一八	四、八三、七九
砂糖	三六、三三〇	製煙草	二、五七〇	一、四六、三五
葉煙草	一一、六九七	牛馬皮	二、七三	一、五七、〇八三
羊毛	二六、六四三	揮發油	五、八七	六、五〇、九七五
石油	四五、六七	重油	一九、三三	六、二六四、二四六
機械用油	一〇、五六八	硫酸安	五〇、六〇	五、八三〇、五三
獸脂(牛酪ヲ除ク)	八、九三七	苛性曹達	八、九三	一、三七四、六六七
硝酸曹達	一〇、四八〇	苛性曹達	六、一八七	五、四七四、九五四
曹達灰	一五、八〇五	酒精	九、五七	一、八三三、三三七
蠟	三、三三	松脂	一五、九六	九、九五、八九
鹽化加里	一〇、七〇八	ピッチ及アスファルト	九、九三	二、二六、五六
棉花	二六、二四二	製麻	三、六一	一、四三、八八
パルプ	三、四〇六	苧及麻	五、三	一、〇六四、三三〇
和紙及洋紙	二七、八六	毛織物	三、一	

磷	一六〇、二八	五、〇九、三九	石	一、七六、九九	二四、六六、四一
土	一七、九四	五、九七	砂	五、九四一	二六、四九
コ	六五、四一	一、七六、七一	セ	六、一七	二、七五、六五
ル	一六、九一	六、八九、九二	メ	三三、三四	三、九九、四六
鉄	二四、五七	七五、六九	ン	二、四九	一、九九、二九
鉛	一六、八三〇	三、八四、五九	ト	一五、八七五	五、二〇、八四〇
其	一六、七五	四、二四、四〇	鐵	六、四九七	一〇、五五、一〇一
他	一〇、七五〇	一、一三、五三	鉛	三、四三	五、七五、六三
力	二、八七九	三、五、〇六	硝	一七、八三	六、八〇、四六
レ	二、八七九	三、五、〇六	子	一八、八三	三、七〇、三〇三
硝	二、八七九	三、五、〇六	板	一、一五、八九	五、一五、六六
子	二、八七九	三、五、〇六	槽	三、九二	七〇、四三
機	一〇、九三	六、二、九六	木	一、一五、八九	三、一五、六六
械	一〇、九三	六、二、九六	材	三、九二	七〇、四三
及	一〇、九三	六、二、九六	炭	五、三九七	四、七四、四六
同	一〇、九三	六、二、九六	護	五、三九七	四、七四、四六
部	一〇、九三	六、二、九六	謨	五、三九七	四、七四、四六
分	一〇、九三	六、二、九六	及	五、三九七	四、七四、四六
品	一〇、九三	六、二、九六	同	五、三九七	四、七四、四六
品	一〇、九三	六、二、九六	製	五、三九七	四、七四、四六
品	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
板	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
コ	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
ル	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
ク	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
及	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
同	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
製	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六
品	一〇、九三	六、二、九六	品	五、三九七	四、七四、四六

三 貿易上に於ける横濱神戸兩港の比較

横濱及神戸兩港は、開港以來彼此相倚り相輔け、今日迄對外貿易上、我二大通商港としての地位を占め、各其ヒンターランド、貿易品、貿易相手國を異にするも、貿易發展の過程から見ると異なつた軌道

上を並行し、常に雁行の情勢にあつた。

而るに歐洲戰を一轉機として、貿易西漸の傾向を示し、取引關係も從つて神戸港に移動するの狀態を現はしつゝあるに際し、關東の震災は横濱をして更に其間の關係を不利に導き、今日に於ては何人と雖も兩港優劣の差を認むるに至つた。

(一) ヒンターランドの廣狹

ヒンターランドの廣狹は、其港灣の價值並に其貿易の消長に重大なる關係を有するものである。今横濱神戸兩港に於けるヒンターランドを見るに、横濱は神戸に比して著しく狹少なるを感ずる。即ち横濱港に輸入する繅綿、木材、鐵及鋼、小麥、羊毛、砂糖、麻類は悉く本港を通過し主として東京に仕向けられる。

輸出にあつては、生糸は主に長野、群馬、福島より、羽二重は福井、銅は下野、常陸より、綿糸は東京より夫々輸送せられ、等しく歐米支那に仕向けらるゝのであつて、輸入品中横濱に於て咀嚼せらるゝものは甚だ僅少である。

尙港灣に密接の關係にある交通運輸の狀況を見るに、港灣出入貨物中生糸、羽二重は上述の地方より

夫々鐵道により輸送せらるゝが、其他の輸出入貨物の七割は海路により、三割は鐵道により東京へ又は東京より輸送される。

斯の如く横濱のヒンターランドは、現在製糸、機業、絹製品又は手工労働に屬する眞田業或は自給自足にも足らざる小農に依屬する極めて狭少なる範圍にある。

而るに神戸港に於けるヒンターランドは、横濱の狭少なるに反し、其範圍は中國、四國、九州方面を一大背景とし、之を西にしては遠く臺灣、朝鮮に亘る廣範のヒンターランドを有するのみでなく、最近我國工業の中心が關東より關西に移動した結果、之に要する諸機械及原料は、殆ど神戸港を経て輸入せられつゝある爲、其經濟的發展の將來あることは何人と雖も容易に之を想像し得られる。

(二) 外國貿易の趨勢

横濱及神戸兩港に於ける外國貿易は、上述の通り歐洲戰を一轉機として、神戸は遂に横濱を凌駕するに至り、明治三十年以來、常に雁行の情勢にあつた兩港の趨勢は、茲に破れ、更に大正十二年の震災による横濱港の打撃は、神戸の貿易額をより以上に激増せしめた。即ち左表に示す通り外國貿易の趨勢は明に西漸しつゝあるを立證する。

年	輸 入		輸 出		割 合	
	額	%	額	%	横濱	神戸
大正十二年	一、一八三、八六九、二一〇	四六	一、三六五、〇三八、三五二	四六	四六	五四
同十三年	一、三〇八、一三二、一七四	四三	一、七五七、三三二、九二五	四三	四三	五七
同十四年	一、五二一、〇二一、八五八	四四	一、九三六、三三八、二七〇	四四	四四	五六
昭和元年 (大正十五年)	一、三九九、九九九、六三三	四五	一、七三三、一〇〇、二〇六	四五	四五	五五
同二年	一、三二三、八二六、〇四二	四五	一、六七一、九二一、二六八	四五	四五	五六
同三年	一、三五六、六三九、三四六	四五	一、五一〇、一四五、七八七	四五	四五	五三

年	輸 入		輸 出		割 合	
	額	%	額	%	横濱	神戸
昭和二年	三三	二六	三三	三五	三七	三三
昭和三年	三三	三一	三三	三五	三七	三三

而して右兩港に於ける昭和元年以降の輸出入貿易價額と、全國總貿易價額との割合を見るに、

即ち右表示の通り、大正十一年以前迄は横濱港の貿易は、全國過半の輸出と、約三割の輸入を見たが、最近に至つて輸出入共其率を低下した之に反し、神戸は依然として、全國過半に近き輸入と、三割以上の輸出を見るのみでなく、輸出漸増の傾向を示しつゝある。

而して今横神兩港に於ける輸出入品を見るに、横濱港に於ては、本邦輸出の大宗である生糸に依屬し、

生糸貿易の獨占到甘するが故に、外國殊に米國の景況如何によつて、常に市況を左右せられつゝある。又生絲は重量貨物にあらざる爲、船舶の出入増加が抄々しくなく、殊に金利、保険料、相場變動等の關係から、之が運搬に速力の大なる優秀船を要するので、現在北太平洋に該船を配給し得ざる本邦船會社が其積荷を外國船に奪はれんとしつゝある。

右の如く、横濱は生糸貿易に偏重せるの結果、其貿易の相手國は主として北米合衆國に限られ、支那、南洋、英領印度に於ける取引關係は甚だ寥々たる觀がある、従つて今後の貿易發展も著しからざるを容易に推察し得られる。

而るに神戸港に於ては、輸出の大半は全製品であり、輸入の過半は原料品であつて、近來益々其傾向多きを示すに至つた。此現象は慥に我國産業の發達を意味し、商工國としての色彩を濃厚ならしめつゝある證左で、殊に神戸港は東洋のマンチエスターである大阪の工業地帯を東隣に控へ、益々原料品の輸入増加、精製品の輸出増の傾向を助長すべきものと豫想される。

次に貿易相手國であるが、横濱が米國を主とするに反し神戸は英領印度、支那、香港、濠洲、南洋、獨逸等の如き、横濱港と貿易關係の少なき之等の諸國と、優秀なる貿易上の關係を有し、而も震災以來生糸が神戸港の輸出品中に加はると共に、絹織物の輸出亦激増せる爲、米國に於ける横濱港の取引範圍

をも侵蝕しつゝある傾向を示すに至つた。

(三) 内國貿易の趨勢

横濱に於ける内國貿易の現状は、瀬戸内海を中心とし中國、四國、九州地方を一大背景とし、之を西にして遠く臺灣、朝鮮各航路の基點となり、之を東にしては北海道、樺太に對する發着地となり、其貨物集散地の廣汎なる神戸港に比し、甚しき遜色あるのみでなく、其勢力範圍にあつた兩羽沿岸、北陸及北海道の兩岸すら神戸港に依屬するの現状である、殊に東京芝浦の棧橋完成後は、從來横濱經由の東京出入貨物も、直接東京に積卸さるゝ傾向著しきを加へた。今試に昭和三年内務省港灣統計により横神兩港に就て其利用、状態を比較するに次の通りである。

横濱神戸發着貨物

港	發 送 貨 物		到 着 貨 物	
	噸 數	價 額	噸 數	價 額
横 濱	五、六一、二四一	四六八、四九五、二四五	四、〇六八、八〇九	二四九、一四七、四八八
神 戸	二、〇一四、三三〇	六二三、二三四、三一七	四、〇一七、九四四	五〇〇、五三三、七二三

右の數示によれば、横濱港は其取扱數量に於て神戸港を凌ぐも、價額に於ては著しき差を以て神戸港

の下位にある其理由は神戸港の入出貨が多く、全製品又は半製品の如き比較的高價なる商品であるに反し横濱港は石炭、木材、砂利等の如き噸當り價格の低き重量貨物なる爲と想察される。

之を要するに、神戸港は横濱港に比して、著しく近海航路の配船多く、横濱港の極めて狭少なる商權に比して、神戸港は本邦西半の商權を把握するのみでなく、臺灣、朝鮮、滿洲、支那等を其勢力圏に入れ、之等近海諸港との取引多き爲、神戸港出入海運貨物の集散地域は、航路の延長と共に益々發展する將來を多分に有してゐる。(昭和四年四月一〇日)

14.5
189

終